

言葉と思い出のひきだし

フタにおハナシ聞いちゃいます!
おしえて人
シゴト人

イチオシ! モーニングのおふたり

イチオシ!
つなぐ言葉
モーニング

土曜日のメインMCを担当している木村愛里さん、依田英将さんのおふたりにお話をうかがいました。

木村 愛里 さん

1989年7月6日生まれ。北海道出身のタレント、女優。4歳で劇団に入り、アイドル活動を経て女優として活躍。CMやラジオにも出演。今年5月には一日警察署長を務めた。2011年から「イチオシ! モーニング」のお天気コーナー、2012年からは土曜日メインMCも担当している。平日は清水秀一気象予報士とともに小芝居もまじえながら楽しい天気予報を伝えている。毎朝、北海道にさわやかな笑顔と元気を与え、人気急上昇中。



▲ 失敗してもめげずに明るくのりきる「イチオシ! モーニング」の元気の源



▲ 平日は大通ビッセ前でお天気レポート。隣には気象予報士の清水秀一さん。

言葉のチカラ
「アイドル、仲間、パートナー、イチオシの花」。共演者からの言葉だ。平日はお天気レポーター、土曜日はメインMCと、木村さんはたくさん顔を持つ。2年前に「イチオシ! モーニング」に出演し始めてからは毎朝4時に起きる朝型の生活になった。早起きのコツは「気合い」。「もうあと5分」はない。喋るにあたって、誰でも気にしてしまうのが「かむ」こと。「かむのは自分の言葉になっていないとき。一度消化してから言葉にすることでスムーズに話せるようになった」。使う言葉にも気をつけている。例えばお天気レポーターのとき、ただ「寒い」と言うのではなく「肌がビリビリ痛くなるくらい」のようにたくさん表現で伝える。同じことを伝えるにもいろんな角度で、言葉の引き出しから探し出して使うことを心がけている。

テレビに出る仕事を始めたきっかけは、自分の言葉に何かを感じてもらえる楽しさを知ったこと。「もっともっと人に何か刺激を与えられる、深みのある女性になっていきたいです」と目標を語る木村さん。話しているだけで私たちが明るくなる、かわいらしくて、すてきな人だった。



▲ CM終了ギリギリまで仲良くトーク

ひととのつながり
高校時代にするべきことは、仲間とたくさん遊ぶこと。木村さん自身、高校生のときは友だちと他愛もない話をするのが、どうしようもなく楽しかった。社会人になった今、友だちに会う機会が少なくなり、当たり前のように毎日友達に会っていたことの貴重さを実感しているようだった。忙しい中でも家族や親友と会ったり、話したりすることが、一番の元気の源という。「気の許せる人たちと会って、何も考えずにゲラゲラって笑うだけですごくパワーがみなぎります。『自分が素でいられる時間』を大切にしています」。

木村さんは「言葉」を信じているという。言葉というのは言葉にある不思議な力のこと。「これしたい!」って思ったことを「私これする!」って言葉にすることで周りにも伝わり、叶っている気がするんです。自分ってすごくラッキーだって」と笑顔で語ってくれた。



▲ こんな所にも、onちゃん!

「イチオシ! モーニング」には「ソラをライブ」というコーナーがある。番組中に視聴者がテレビのリモコンやスマートフォンでお題に回答し、北海道中の結果が集計され、見ることが出来る。広い北海道は天気ひとつとっても一緒ではない。例えば「今の天気は?」というお題であれば、札幌が晴れていても雨が降っている所もあるかもしれない。一方的に伝えられるよりも、天気予報がとても身近に感じられる。



▲ 「イチオシ!」に登場することも

北海道の楽しい番組
10周年を迎えた「イチオシ!」を制作するHTBはonちゃんで有名だ。取材に行ったとき、出演者であるオクラホマの藤尾さんが私たちに話しかけてきてくれたり、CM中はガンちゃんこと野球解説者の岩本勉さんがユーモアのあるトークをしていたりと、出演者もスタッフもとても仲良くアットホームで柔らかい雰囲気だった。番組中は生放送の裏側も見せてもらうなど、とても親切にしてくださった。

人に出会い、人から学び、
人に伝える新聞局。

「17歳新聞」つくりたい生徒募集!
詳しくは横山先生・佐高先生、または局長に聞いてください。



「新聞? 見てるよ、テレビ欄。」
そんな人も、新聞局。

依田 英将 さん

1986年9月11日、長野生まれ、栃木育ち。HTB入社5年目。早稲田大学商学部出身。中学生時代は生徒会長、高校時代は副会長、特技はヴァイオリンという多才なアナウンサー。「イチオシ!モーニング」では、平日は朝刊拾い読みキャスター、土曜日は木村さんとともにメインMCを務める。2人の席は隣で、番組中も息がぴったり。



▲喋ることをこよなく愛する「イチオシ!モーニング」の優等生

生活のエッセンス

「テレビに出て話すのは、ものすごく体力を使う」。MCを務める依田さんはそう話す。1時間のオンエアは、高校では1時間目から6時間目まで休みなしでテストをするのと同じくらい、労力を費やすそう。それでも元気の源は「喋ること」。仕事が終わった直後は「もう今日は

楽しさについてくる、たくさんの疲れときれいな涙

喋らなくていい」と思っても、しばらくすると口を動かしているそう。で、自分が楽しい。会話することで、自分と人との違いが分かるから。ひとつの生活のエッセンスみたいなものかな」。



▲言葉のスタイリストたち

先輩から「アナウンサーは言葉のオシャレをする職業だ」と教わった。話すことが好きな依田さんにとって、まさに天職なのかもしれない。「人は何かの一番をめざすことで成長していく。視聴者に寄り添いながら一番になりたい」と目標を語る依田さんのお話から、終始仕事に対する楽しさが伝わってきた。



▲見えないところでもがんばります

泣ける卒業式を

アナウンサーは幅広い知識を要求される職業だ。情報番組のMCともなると、経済からスポーツまでと話題のジャンルは多方面にわたる。高校時代は生徒会副会長を務め、オーケストラでヴァイオリンを弾く一方、弓道部に所属し勉強も欠かさなかった。高校生活で積み重ねた知識や経験は、アナウンサーとなった今でも自分を支えている。「高校・大学・社会人は1本の線で繋がっている。だから、絶対大事にしたほうがいい」。

卒業式に泣ける高校生活を送ること。そのために自分は何をすればいいのかを、逆算して考える。短い期間の中に思い出を詰め込んで、そして最後の日に「楽しかったな」と思える3年間を過ごしてほしい。そう語る依田さんの言葉に、改めて人生の何割にも満たない学生生活の大切さを感じた。



▲なかなか見ることのできない生放送の裏側



▲台本をもとに番組がつくられていく

あとがき

今回の取材で一番印象に残っているのは出演している方々の仲の良さで楽しい雰囲気でした。テレビの画面からにじみ出ている楽しさは、スタジオの雰囲気そのもの。明るさが番組のチカラであることを知りました。

スタッフの方々にも、とても親切にいただきました。生放送中の制作副調整室を見せていただき、貴重な経験ができました。画面を切り替える人、効果音を出す人など、たくさんの方の支えでひとつの番組ができあがっていることを実感しました。

こんな素敵な「イチオシ!モーニング」そしてHTB。これからも北海道のためのテレビ局として、私たちを楽しませてください。ありがとうございます。



竹田 沙織
Saori Takeeda



森 卓
Satsuki Mori

吹奏楽局、高校3年生。「個性が集まりひとつの音楽になるところが好き」と語る局長の森さん(右)と、6カ年大谷吹奏楽局員であるコンサートミストレスの竹田さん(左)。コンクールや演奏会だけでなく、学校行事や運動クラブの応援などでも活躍する。

なかまの支え

中学生から高校生まで一緒にあって、ひとつの目標に向かって力を合わせるところが大谷吹奏楽局の魅力だ。多くの苦労があるなか仲間からの「がんばれ」のおかげで乗り越えられるという。「森さんは冷静にまわりを見ることができて頼りになる」と竹田さん。「竹田さんは言いたいことをはっきり言ってくれて、隣にいてくれるだけで安心できる人」と森さん。個性あふれる局員をまとめる2人はお互いに信頼し合っていた。

みんなのために

2人の話で印象的だったのは「自分よりもみんなのために」という気持ち。「もっとうまく演奏できるように協力したい。音楽を楽しみたい」と思ってもらいたい。6月には高文連、8月にはコンクールがある。「賞にこだわらなくてもいい」「後輩の指導にも力をいれていきたい」とそれぞれの目標も語ってくれた。

がんばる部員に聞いてみよう!
インタビュー!

オオタニ高校のせんせいたちをご紹介します。

9 せんせいずかん

コウチュウ・コクゴ科 ニトウリュウ目
タネイチマサミ

- ▶ 生息地
森林公園のコンビニ
- ▶ 好きなもの
麺類(とくにソバ)
オヤジギャグ
- ▶ 類似注意
タヌキとカエル
- ▶ 目標
大谷をいい学校にすること

第64回
学園祭
テーマ「Voyage」

一般公開
7月20日(土) 9:00～14:00

クラス発表(3年模擬店)・2年舞台発表・教室発表・1年合唱発表)、
クラブ発表(舞台・展示)、有志パフォーマンス再演、バザーなど



特設WEBサイトで紙面に掲載しきれなかった記事が見られる!

www.s-ohtani.ed.jp/17

スマホでも!

